

衆議院環境委員会ニュース

平成 25. 5. 31 第 183 回国会第 13 号

5 月 31 日（金）、第 13 回の委員会が開かれました。

1 環境の基本施策に関する件

- ・石原環境大臣、秋野環境大臣政務官、田中原子力規制委員会委員長及び政府参考人に質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

中 島 克 仁 君（みんな）

- ・東京電力福島第一原子力発電所（以下「福島第一原発」という。）事故について国連科学委員会がまとめた報告書案で、日本国民の総被ばく線量について、甲状腺がチェルノブイリ原子力発電所事故の約 30 分の 1、全身は約 10 分の 1 と推計されている。その一方で、放射性物質の放出量や被ばく線量等について不確定要素も多いと指摘されていることに対して、同報告書案の信頼性について環境省の見解を伺いたい。
- ・福島第一原発事故で拡散した放射性物質の核種及び量、事故発生時の子どもの動態調査の進捗状況について環境省に伺いたい。
- ・5 月 28 日の衆議院本会議における電気事業法改正案に関する小池政就議員からの質問に対し、原発技術の輸出に関して国は責任を負わないととれる茂木経済産業大臣の答弁に対する石原環境大臣の見解を伺いたい。

小 沢 鋭 仁 君（維新）

- ・日本のトキの孵化率が中国と比較して低いとの指摘があるが、環境省はその要因をどのように捉え、また対応していく考えか。
- ・地球温暖化対策に係る新たな国際枠組みの構築の最大のポイントは、全ての国が参加することである。共通だが差異ある責任という課題がある中で、COP19 に向けてどのような対応をしていく考えか、石原環境大臣に伺いたい。

阪 口 直 人 君（維新）

- ・アジア各国への環境技術の輸出が進まない理由として、現地において知的財産の保護が徹底されていないなどの制度的な問題が挙げられるが、法規制を強化することについて各国の姿勢はどうなっているのか伺いたい。また、この問題について環境省はどのように働きかけていくのか伺いたい。
- ・日中韓三カ国環境大臣会合において、特に黄砂の問題に関してどのような成果及び課題が得られたのか、また、中国が副大臣級の参加となったことについて、秋野環境大臣政務官の見解を伺いたい。

吉 田 泉 君（民主）

- ・福島第一原発における地下貯水槽からの汚染水漏れについて、東京電力により、当初最大 120 トンと推計された漏水量が 20 リットルと訂正された。この漏水量の推計ミスが生じた原因及び背景について、原子力規制庁の見解を伺いたい。
- ・福島第一原発で生じる汚染水については、試験運転中である多核種除去装置（以下「ALPS」という。）により処理された後も、沃素等が残留してしまうとの報道がある。このALPSの課題及び今後の見通しについて、田中原子力規制委員会委員長に伺いたい。
- ・除染作業については、「除染推進に向けた基本的考え方」（平成 23 年 8 月 26 日原子力災害対策本部）に沿って実施されているが、物理的・自然的な要因により当初の見込みを上回る放射線量の減衰があるものと考えられる。そこで、除染作業の実施から丸 2 年が経過する本年 8 月を目途として、当該考え方や除染方針等の見直しを検討すべきと考えるが、石原環境大臣の見解を伺いたい。

2 ①絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第 66 号）（参議院送付）

②特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第 67 号）（参議院送付）

- ・石原環境大臣から提案理由の説明を聴取した後、①の参議院の修正にかかる部分について、修正案の提出者参議院議員西村まさみ君（民主）から説明を聴取しました。